

図書館サービスにおけるユニバーサルデザイン

2019年(令和元年) 6月20日

同志社大学 大学院総合政策科学研究科 ソーシャルイノベーションコース 客員教授
株式会社ユーディット (情報のUD研究所) 会長兼シニアフェロー

<http://www.udit.jp> 関根 千佳

- 1、80年代のアメリカの図書館で受けた衝撃
- 2、世界最高齢国家日本で求められる図書館の在り方とは
- 3、ユニバーサルデザイン (UD) とは
「年令、性別、能力、体格などにかかわらず、より多くの人ができるだけ使えるよう、最初から考慮して、まち、もの、情報、サービスなどを作るという考え方と、それを作り出すプロセス (過程) のこと」
- 4、ICTにおけるユニバーサルデザイン
 - ① 携帯電話やATMなどのユニバーサルデザイン
 - ② 進化する「本」のユニバーサルデザイン
 - ③ 放送や通信のユニバーサルデザイン
 - ④ Webサイトのアクセシビリティ
- 5、2016年4月 障害者差別解消法施行
 - ① 欧米に遅れること約30年
 - ② 「不当な差別的取扱い」と「合理的配慮の提供」
- 6、欧米の図書館に見るアクセシビリティ
 - ① LAの図書館
 - ② 高齢者住居には必ず立派な図書館が
 - ③ NYPLはなぜ世界一と呼ばれるか
- 7、「障害者とテクノロジー会議」に見る先進的な図書館のUD
 - ① リハビリテーション法508条の影響
 - ② Bookshareは世界の読書環境を変える
- 8、日本の図書館に見るユニバーサルデザイン
 - ① あかし市民図書館
 - ② みんなの森 ぎふメディアコスモス
 - ③ 大学図書館のUD
- 9、これからの図書館を考える
 - ① 図書館に集まる市民の力を地域に活かす
 - ② 自分ごととしてUDを考えてみよう

参考資料 「ユニバーサルデザインのちから」生産性出版 ISBN : 978-4-8201-1935-7

「情報社会のユニバーサルデザイン」NHK出版 ISBN : 978-4-595-31959-4